

読者の声



いろんなかたちの 保健室

中川征士

訪問看護ステーションひゅっぐりー/
暮らしの保健室さくらい

全国に「暮らしの保健室」が広がっている。『訪問看護と介護』2017年4月号（特集「聞いてわかった！『保健室』と地域の姿」）には、そのさまざまなノウハウ、運営者の想いがまとまっていた。近年、各地で「暮らしの保健室」が開設されているが、その姿はじつに多様で、秋山正子さんの言葉から「保健室はかくあるべし」というものはないとわかる（同号掲載「保健室は最先端!?——秋山正子氏に聞く」）。新宿の「暮らしの保健室」自体も、当初の評価とは異なる視点からの再評価もあるようだ。多角的な評価を受ける「保健室」に、この先ますます可能性が広がっていくのでは、と期待があふれてきた。

その期待は、私自身が運営する「暮らしの保健室さくらい」に向けてのものである。私の生まれ故郷である奈良県桜井市で「暮らしの保健室さくらい」を立ち上げ、3年目となった。きっかけは、東京で開催された秋山さんの講演会だった。「一度、暮らしの保健室に行ってみてください！」という私の気軽な発言に対し、「明日、来る？」と多忙すぎるはずの秋山さんから思いがけない返事をいただき、「行きます！」と即答したことを鮮明に記憶している。そこ

から3か月、毎月1回はお伺いし、スタッフの方やボランティアさんたちの思いを聴いて、「自分の地元でもやろう！」と決意した。

そして『暮らしの保健室』を一緒に運営しませんか？と、市内の医療機関や介護事業所を回り、計7人の仲間が集まった。毎週業務後に遅くまで話し合ったことが懐かしいが、その仲間とは今も一緒に活動が続けている。「保健室の場所をどうするか」という悩みは、図書館の館長が協力してくれたことで解決した。館長から「認知症の方が来館された際にどのようにしたらいいか？」という相談がきっかけだった。それにより、桜井市の図書館に、認知症の人に優しい図書館づくりの一環として「保健室」が位置付けられたのだ。今では市民ボランティアも増え、専門家のボランティアスタッフが20人弱で市内の巡回もする。新聞や広報誌に載るうちに、出前講座の依頼も増え、毎週末、市内のどこかで開催している。

私たちの保健室は、このようなかたちでいつも「ひよんなひと言」がきっかけとなっている。しかし、そうした開設の動きは間違っていなかったのだという安心感を、4月号を読んで感じた。保健室には多様な姿があり、背景には地域の声や偶然の出会いが開設・運営に左右したとわかるのである。私で言えば、偶然秋山さんと出会った翌日に運よく訪問できていなければ決意することはなかっただろうし、仲間も場所も偶然のきっかけが左右していた。

4月号の皆さんの取り組みで共通

しているのは、暮らしの保健室が「1人ではできないこと」ではなかろうか。それぞれの場所で、多様な職種や立場の仲間がいる。地道な活動を続け、それを通して地域からの信頼も築いたのだろう。自分たちの活動を通し、それは確信できる。地域の声を丁寧に聴き、その人らしさをサポートしていくことでしか信頼は生まれないのだ。その連鎖で新たな仲間、活動場所の発見につながるのだと思う。

杉本みぎわさんの記事（同号掲載「空き家を『地域の資源』に変える」）を読んで、その想いはさらに強まった。思いがけない不思議な縁に導かれて……ということはあり得るのだ。私たちが暮らしの保健室を始めてから知り合った方に、「うちの空き家を使ってくれませんか？」と声がかかった。そしてその縁に導かれ、空き家を活用して訪問看護ステーションを開設できたのである。いろんなことが巡り巡って、いつしかかたちになってきている。まるで何かに導かれているように。「いろんな人たちの想いを聴き、その上で仲間の手をかりかたちにした」。それが桜井市の暮らしの保健室ではないかと、4月号を通してふり返ることもできた。

そんな「暮らしの保健室さくらい」も、いよいよ常設化に向けて動き出している。今年10月を予定しており、これから地域の手をかり聴きながら、皆で一緒につくりあげたい。そう強く再認識させた4月号も、私にとって何かの縁だったのかもしれない。

あなたの「声」を お待ちしております。

編集室
より

掲載記事に対する感想・著者への手紙・編集室への意見・提案／看護に対するエッセイ／取り上げてほしいテーマなど、何でもOK。読者同士の情報・意見交換の場にしたいと思います。

●投稿について

封書、ハガキ、FAX、メールにて下記までお送りください。実名掲載が基本となりますが、匿名の場合はその旨明記ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈します。

●宛先

郵送の場合：〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

医学書院「訪問看護と介護」編集室

FAXの場合：03-5804-0485 E-mailの場合：houmon@igaku-shoin.co.jp